

令和2年度 学校評価書

総社市立総社小学校
校長 高杉 整二 印

1 自己評価

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

1 心の教育の充実【やさしい子】

総社市教育大綱…心優しい子供

① 道徳教育，人権教育，総社っ子応援プロジェクトの取組を充実することにより，児童同士の絆や思いやりの心を育て，長期欠席・不登校やいじめの未然防止に努める。

・毎月，品格教育のテーマと関連した価値について道徳の授業を行った。道徳教育推進教師が示す指導のポイントや内容項目の扱い等を参考に児童の実態に合わせた道徳の授業を各クラスで行い，次年度に繋がるよう授業の流れ，ワークシート，板書はデータで残し，資料は教材ごとに整理し，継続した道徳教育の充実に繋がるようにした。

・6月の「いじめについて考える週間」や12月の「校内人権週間」等を中心に新型コロナウイルス感染症に関するいじめについての話や人権作文の読み聞かせ，人権標語に取り組むとともに「いじめ0 みんなの笑顔の 総小っ子」を合い言葉に人権学習等に取り組むことができた。

・教室内や廊下に児童のがんばりを認める掲示物がたくさん見られたり友だちのやさしさやがんばりを記したくすの葉が1月末現在で1，178枚になったりするなどPBIS活動の充実が互いを認め合う児童同士の絆や思いやりの心を育てることに繋がっている。来年度以降も本校の大きな柱として，この取組をさらに充実させていきたい。

総社市教育大綱…礼儀正しい子供，総社を愛す子供

② 「すきだ総社小学校運動」すすんで挨拶，きちんと整頓，だまって掃除を推進するとともに愛校心を育てる。

・「すきだ総社小学校」の「す」進んであいさつを重点目標とし，あいさつを毎月第一週の生活目標に掲げ，継続して指導を行うとともに「あいさつ一番」を合言葉に3年生から6年生がボランティアによるあいさつ運動の取組を行った。また，総社東中学校ブロックの小中学校からあいさつ標語を募集し，幟を作成し校門に設置した。こうした取組の成果として朝だけでなく校内で出会った時，多くの児童が進んであいさつができています。今後は，地域でも同じようにできるよう粘り強く取り組んでいきたい。

・「き」きちんと整頓は，落ち着いた学習環境を整えることを重点に取り組んだ。教室の机やロッカーはもとより，特に心を整えることを目指して靴箱の靴の整頓に取り組んだ。靴の入れ方を示した写真を掲示し，きちんと整頓された学年の靴箱をお昼の放送で紹介し，全校で賞賛した。その結果，ほとんどの学年で靴の整頓ができるようになった。

・「だ」黙って掃除は，計画委員会や担当教員が放送で“だまってそうじ”を促した。また，頑張っている班を放送で称揚する取組を行ってきたところ縦割り清掃においては“だまってそうじ”がほぼ徹底できるようになった。美しい新校舎を大切を守ることを通して愛校心を育てるとともに一生懸命掃除に取り組む児童を育てていきたい。

・6年生でいじめと考えられる事案があがった際にいじめ対策委員会を開き，貴重なご意見をいただきその後の対応に役立てることができた。いじめ防止として自己肯定感の醸成のため児童誰もが活躍できる機会を作ったり児童同士のつなが

りを強めたりする活動を設ける取組を行った。学習時に協同学習やグループ、ペア活動を積極的に取り入れたり、発表の機会を意図的に増やしたりすることで、授業の中で児童が活躍できたりつながりを強めたりする機会を設定した。また、計画的な縦割り活動(縦割り掃除やなかよし遊び等)やピア・サポート活動により、学年を超えた児童同士の関係づくりを進めることができた。学年で歩調を合わせて、各学級での協同学習や仲間づくりの活動を積極的に進めた結果、支持的風土ができてきたと感じている。また、毎月の「こまったことアンケート」(いじめ実態把握アンケート)や年2回の教育相談でいじめやいじめにつながるケースを発見・対応でき、効果が実感できたので、引き続き取り組んでいきたい。さらには、毎週金曜日に情報交換の機会を持ち、いじめ実態把握アンケートにより得た情報や気になる児童の様子等を全教職員で共通理解することを今後も継続して行っていきたい。

2 健康・体力づくり【たくましい子】

③ 健康教育・特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。総社東中ブロックの学校園と連携し、ノーメディアの取組を推進する。

- ・ 今年度は、基本的な生活習慣の中で特に、重点として感染症対策とメディアコントロールの2項目を取り上げ、毎日朝・業間・昼休み時に手洗い励行の放送を行い、習慣づけを図った。また、下校後には各教室等の消毒を行った。メディアコントロールについては、総社東中学校の年5回の定期考査に合わせて「メディアコントロール週間」に取り組んだ。児童には保健委員会による校内放送、家庭には学校保健委員会だより、保健だより等を発行して意識の向上を図った。

年間5回のメディアコントロール週間を中心に、減メディアや早寝早起き、睡眠時間に関する取組や家庭への啓発に取り組んできたが、なかなか成果が現れていなかった。しかし、今年度は、児童が初めて目標の80Pに達した。継続した取組により児童の意識が高まっており、引き続き中学校区で連携して粘り強く取り組んでいきたい。

④ 目標を持って主体的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図るとともに最後まで粘り強く頑張る態度を育てる。

- ・ 児童のアンケート結果が中間期より3.6P上昇する等新しい運動場が完成し、外遊びをする姿が多く見られるようになってきた。教員の声かけや共に遊ぶ姿勢が結果に繋がっている。来年度は、業間時間に全校で体力づくりに繋がる取組を考えていきたい。体育科の授業においても「運動の特性」「運動量の確保」の視点を持って授業を構成していくことを大切に運動好きの児童を育てていきたい。

3 確かな学力の向上【すすんで学ぶ子】

⑤ 児童が主体的・対話的で深い学びを実践し確かな学力が身に付けることができるように授業改善を行う。特に、考える活動や書く活動を重視する。

- ・ 今年度は、「だれもが行きたくなる学校づくり」のプログラムである協同学習、SEL、ピア・サポート、品格教育・PBISの実践研究に全担任が取り組んだ。また、授業研究だけでなくそれぞれのプログラムのリーダーによる研修会を開き、共通理解を深めた。

⑥ 朝学習や総小チャレンジタイム、家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。

- ・ 朝学習の時間には基礎学力、「総小チャレンジタイム」には表現力や思考力を育成する問題に取り組んだ。また、朝学習や「総小チャレンジタイム」には、学校支援ボランティアの協力を得て担任と複数で指導に当たることができた。その結果、8月に行われた3～5年生対象の岡山県学力テストでは、どの学年も平均正答率が全国平均を上回り、これまでの取組の成果が見られた。来年度は、①授業、②授業外(朝学習、総小チャレンジタイム)、③家庭学習の3本柱を軸により充実した取組を行い、学力向上を図っていきたい。

4 地域とともにある学校づくり

⑦ 各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。

- ・ 校長室便り，学校便り，学年便り，学級便り，図書便り，保健便り，学校保健委員会便り等をタイムリーに発行するとともに，総社市安心メールを使って情報共有を行ってきた。来年度は，ホームページの充実に力を注ぎたい。また，各種会議等の場を使って，現状や学校としての考え・取組を理解していただけるよう説明責任を果たしていきたい。

⑧ きらめきEASTの幼稚園，小・中学校や家庭・地域，関係機関との連携を深め，児童の健やかな成長を図る。

- ・ 総社東中学校ブロックの幼稚園，小・中学校と連携し，確かな学力の向上を目指し，学びの基盤となる力の向上，教職員の授業力向上，教職員のチーム力向上を柱に様々な活動に取り組んだ。今年度の主な活動は，東中学校の定期考査に合わせたメディアコントロール週間の取組，中学校教員による6年生への出前授業，質と量を考えた有効な家庭学習の出し方，校種を超えたピア・サポート活動，幼小・小中の情報共有，東中オープンスクール等である。今後も，東中学校ブロックの幼稚園，小・中学校とさらに連携を深め12年間を見通した取組を進め，児童の健やかな成長を促していきたい。また，保育園や，高校，大学との連携も進め，多くの繋がりの中で子どもたちを育ていきたい。

2 学校関係者評価者名

井上 憲司 (有識者)	萱原 潤 (地域住民)
藤井 瞳 (川崎医療福祉大学)	餅川 修 (PTA会長)
平松 桂子 (主任児童委員)	栗原 勇太 (PTA副会長)
宮本由里子 (地域住民)	小林 かおり (PTA副会長)

3 学校関係者評価

【学校経営目標の達成状況に関して】

- 1 心の教育の充実
児童にまわりの人の優しさを感じる心が育っている様子が伺える。登下校を見守ってくださっている方々に感謝の気持ちが伝わるあいさつができるよう指導してほしい。互いのよい行動を認め合うPBIS活動をさらに進めてほしい。
- 2 健康・体力づくりの推進
感染症対策については，習慣づけができています。気を緩めることなく継続した取組を行ってほしい。メディアコントロールについては，児童の意識が高まっている。中学校区で連携した取組の成果と言える。外遊びを奨励する仕掛けや声かけに期待する。
- 3 確かな学力の推進
教員の共通理解が図られ，同じ目標をもって取組ができていますので成果として表れている。学力テストの平均点のみならず，基礎的な内容理解が不十分な児童に対する支援を大切に底上げを図ってほしい。
- 4 地域とともにある学校づくり
情報の受け手である保護者のポイントが上がっているのは，取組の成果である。より多くの大人の目で子どもたちの見守りが行えるよう継続した取組を行ってほしい。

【総括】

- ・ 4段階評価を数字に反映させるためポイント制にしたのは，正確な評価が吸い上げられよかった。また，経年変化を見るうえでパーセントでの集計もあり，わかりやすかった。再来年度からは，経年変化も見えるので，ポイント制だけの集計でよい。
- ・ 来年度から達成基準を学年別にすることに項目がある。項目によっては，学年ごとで考えるのも必要だと思う。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- 1 総社市教育大綱と本校学校教育目標の重点項目の一つ「やさしい子」の実現に向けて，PBIS活動の充実を図り，互いが認め合える人間関係の構築を進めていく。
- 2 感染症対策の徹底と基本的な生活習慣の取組の継続を進めていく。
- 3 確かな学力の育成に向けて，授業，授業外（朝学習，総小チャレンジタイム），家庭学習の3本柱の充実を図る。
- 4 素早い情報収集とホームページを中心とした積極的な情報発信に努める。

